

学校給食を 箱膳にのせて

長野市 信里小学校



長野市の信里小学校で11月19日(月)、箱膳で給食を食べる「和食の日」食育授業が行われました。

協力は、NPO 法人食育体験教室・コラボと信州ひらがな料理普及隊。多目的ホールに御座を敷き、箱膳を並べ、1年生から6年生まで全校の生徒と先生方が集まりました。



「いただきます」って？

外国では言わない日本人だけの文化。だれに？なにに？「いただきます」と言いましたか？

今日は“ろうるさいおばあちゃん”が、みんなの食事を見ながら声をかけます。「いただきますは、いのちのあるものに対して、『ありがとう、あなたのいのちをいただきます』という言葉」。

箱膳体験は、日本の伝統的な和食の文化を学ぶ機会。箱膳を前に向かい合って正座でいただく給食。みんなが揃うのを待ってから声をあわせて「いただきます」。

箸を手前に、横に並べるのはなぜでしょう？

それは、箸の向こう側が「いのちのあるもの」だから。横に置いた箸の結界を解いて、いのちをいただくのです。いのちは、ひとつひとつすべてのものにあります。



自称“ろうるさいおばあちゃん”の池田玲子先生。長野県農村文化協会の理事で、信州ひらがな料理普及隊の指南役も務めています。



三口食べたなら、なんと言う？

「おいしいね」と言うのが、食事を用意してくれた方への礼儀。家でもちゃんと感謝しながらいただくね。



今回は、麦ごはん、豚汁、西京焼き、野菜の和え物など、いつもの学校給食を箱膳にのせていただきました。和食の献立には銀のトレイより箱膳が似合っていました。

「和食」のことなら、おまかせください

NPO 法人食育体験教室・コラボでは、小学校などでの「和食の日」教室（だしを伝える授業や、子どもがつくる「弁当の日」など）をお手伝いしています。

信州ひらがな料理普及隊は、学校や地域での箱膳体験や郷土食講座などをお手伝いしています。

いつもの給食とは、ちょっと違った雰囲気の中膳体験。「ごはん一杯で、なん粒のお米を食べたでしょうか？」、田んぼで生まれるおたまじやくしや赤とんぼの話。季節ごとにいただく体に良い食べものなど、伝えたいことがいっぱいあるおばあちゃんの話は止まりません。